

熱い夏・熱い公演 いいだ人形劇フェスタ・竜丘公演

2016も飯田の夏を彩るのはやっぱり人形劇!!



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口 6,901人
男子 3,350人
女子 3,551人
世帯数 2,533戸
(28年8月末現在)



八月四〜七日公民館大ホールを皮切りにいいだ人形劇フェスタ竜丘地区公演が行われました。連日の暑さに負けず、本館・分館を合わせて十七の劇団による熱演が繰り広げられました。

連日高温に見舞われた八月四〜七日、いいだ人形劇フェスタ竜丘公演が行われました。本館のマラソン公演は五日に行われ、竜丘公民館内の三会場を使用し、県内外から九団体が公演を行いました。大ホールの公演には最大三百五十名、和室やサークル室の公演にも七十〜百名の来場者があり、二日間で延べ千人を超える観客数になりました。

知多市から来た「劇団ベコロス」は平成元年からフェスタに参加し、過去にも竜丘に来たことがある劇団です。団員の高齢化で少しずつ人数が減ってきているそうですが、今年は新メンバーを加えて熱演してくれました。演目は誰もが知っている『三匹のこぶたと山のおおかみ』。有名な童話なので話の筋は知っているのですが、人形の動きや、セリフ回しや歌などで肉付けされた公演に、子ども達は次の展開を友達と話したり、人形に話しかけたりしながら、食い入るように見ていました。

荒川区から来た「ぼねるんるん」は黒いパネルにきれいな蛍光色を用いた独自の手法を用いたパネルシアターでした。いろいろある演目の中から代表の方のオリジナルで、親の話を元に書き下ろした戦争童話の『月見草と犬』を上演。フェスタには参加三年目で飯田では戦争に関する演目を扱っています。保護者の方から「親子で戦争について話し合う機会が持てて良かった。」という感想をいただくことが多いそうです。

どちらの劇団の方からも「飯田の子ども達は素直で、反応がいい。」「飯田の子は素朴で一生懸命見てくれてうれしい。」「人柄がやさしい。」という感想をいただきました。

「遊楽マリオネット」は糸あやつり人形を用いて十分間のセリフのない劇を披露、たくさんある糸を巧みに操り、まるで生きているかのような人形の動きに魅了されました。ピエロの人形は宙返りや玉乗りを、黒服の人形はステッキの先からシャボン玉を、女の子の人形はダンスを披露し、ステージにかぶりついて見ていた子ども達は生きているように動く人形に触ろうと手を伸ばし、その手の先を人形が歩いたり踊ったりする光景が見られました。

その他にも、影絵・朗読と人形劇を組み合わせた音読劇・歌や演奏・新聞紙でTシャツをつくるワークショップ・紙芝居と人形劇以外の多種多様な公演が行われ、いくつかの公演をはじめ、いくつもの公演は、しごいても飽きないプログラム構成でした。

運営には公民館の役員の方にご苦労をいただいています。その他にボランティアとして小学生八名・中学生一名・高校生一名を含む十二名の方が運営を手助けしました。ボランティアの方々は、受付の設営から始まり、スタンブカードにスタンブを押したり、アンケートを配布したり、来場者の数を数えたりと大活躍でした。下平有華さんと吉川あかりさん（ともに小四）は、クラスが一緒に友だち。小学校一年生の時からボランティアとして参加しているそう、今年もボランティアに参加した理由を「毎年やっていて楽しいから。」と笑顔で答えてくれました。

時又公演

八月五日午後七時より、時又ふれあいセンターで「劇団すぎのこ」の公演がありました。

準備中に雨が降りましたが、開演前にはすっかり止んだこともあり、沢山のお客さんが並び、会場が一杯になるほどの盛況となりました。

また、「劇団すぎのこ」はプロ劇団としても有名で、「おはなしキャラバンつばさ」という劇団が、勉強として

長野原公演

八月六日長野原区民センター公演は、静岡県牧之原市から来た二人組の「茶間屋シヨゴ」を迎えて行われました。

「じゃがいも兄弟」では二つのジャガイモの人形の会話を落語のような軽妙な口調で演じ、棒の先の人形があたかも会話をしているように見せていました。ミニ音楽会では口琴や力ズーなどの珍しい楽器を紹介してくれました。

あまり見たことのない楽器の不思議な音色に、子ども達は興味津々でした。最後の『はらぺこバレン』は風船を用いた人形劇で、食いしん坊の猫がネズミやキリン、最後には月や太陽まで食べてしまうお話にどうなるのかドキドキしながら最後まで引きつけられました。観客との会話を大切に

駄科公演

八月六日に駄科公演が、「ヨシダ人形劇」さんを迎えて行われました。

当日は、『はむによ』『カッパのぬけがら』の二つのお話を演じていただきました。『はむによ』は、言葉は使わず、擬音のみでレストランの食事を食べ過ぎてしまう様子を面白おかしく演じてくれました。『カッパのぬけがら』は、カッパと男の子の心温まる物語でした。どちらの作品も一人で演じるヨシダ人形劇さんの熱演に、子供も大人も引き込まれていました。

暑い中での公演でしたが、来場してくれた方々には大好評でした。

桐林公演

フェスタの成功のため、また、役員のみなさんがお互いに名前を呼び合えるような親しい関係をつくらうという想いから、スタッフ証のほか、全員の名前入り集合写真を作成しました。

その甲斐もあり、ワッペンの販売数は新記録を達成しました。

会場設営では、劇団の希望で竜丘公民館大ホールを真っ暗にすることになりました。カーテンの遮光だけでは完全に暗くならないため、高さ5m以上のところにある窓を幕で覆う事になりました。足場も使用しながらの高所作業となりました。

いよいよ始まった人形劇は、ブラックライトを使った演出で「闇の中でくつきり浮き上がる人形の生き生きとした動き」に子どもはもちろん大人のスツカリその虜となりました。食いしん坊のおおむしがさなぎから羽を一杯広げ蝶に変身した終演の時、沸きあがった二百余名の感動の拍手の大きさがとても印象的であったと共に、会場設営の苦労が報われました。

子ども達が大人になる頃には、どうなっているのだろうか。大きな波に流されないためにも、自分の拠り所になるものが一層求められるのではないかと。祖父父母に比べれば拙い飯田弁だが、子ども達に竜丘らしさや、ここで生まれ育った誇りを少しでも伝えていければと思う。

ヤブ取

四十数年前に農協婦人部が出版した歌集に、下伊那の方言解説が載っているのを見た。「あんじゃない（大丈夫）」「こうがわく（腹が立つ）」「ささらほううさら（めちやくちや）」「かにや（ごめん）」「しとねる（育てる）」等々、祖父父母がよく言っていた言葉を思い出しながら、懐かしい気分になった。父母も方言を使うが、祖父父母ほどではない。自分では、意味は分かるが自ら使うことができないものが多い。自分たちの世代で、飯田弁も標準語に近くなってきた。

普段、iPhoneの携帯電話を使い、グーグルでインターネット検索をし、ワードやエクセルのソフトで仕事をする。これらはすべてアメリカ発の商品。日常の買い物は全国的な大型店へ、全国どここの店舗でも同じ品揃えである。「言葉が通じにくくとも香港やニューヨークの都市の方が、コンビニもない田舎より暮らしやすい」という若者の話を聞いた。同じ様な店で食事や買い物をし、同じ情報を得て、仲間とはSNSで二十四時間つながる。同じ暮らし方をして、同じ考え方の人が増える。人や物の交流が多様になる中で、風土と歴史を背景にした文化が一樣となっていく気がする。

子ども達が大人になる頃には、どうなっているのだろうか。大きな波に流されないためにも、自分の拠り所になるものが一層求められるのではないかと。祖父父母に比べれば拙い飯田弁だが、子ども達に竜丘らしさや、ここで生まれ育った誇りを少しでも伝えていければと思う。

上川路公演

飯田人形劇フェスタ最終日となる七日に、上川路地区公演が開催されました。

連日の猛暑の中、多くの家族づれで賑わいました。公演は、「人形劇たん大福」さんの『河童にまけたおすもうさん』で、公演のはじめにお話で子どもたちの心を和ませ、劇の中に引きずり込んでいきます。

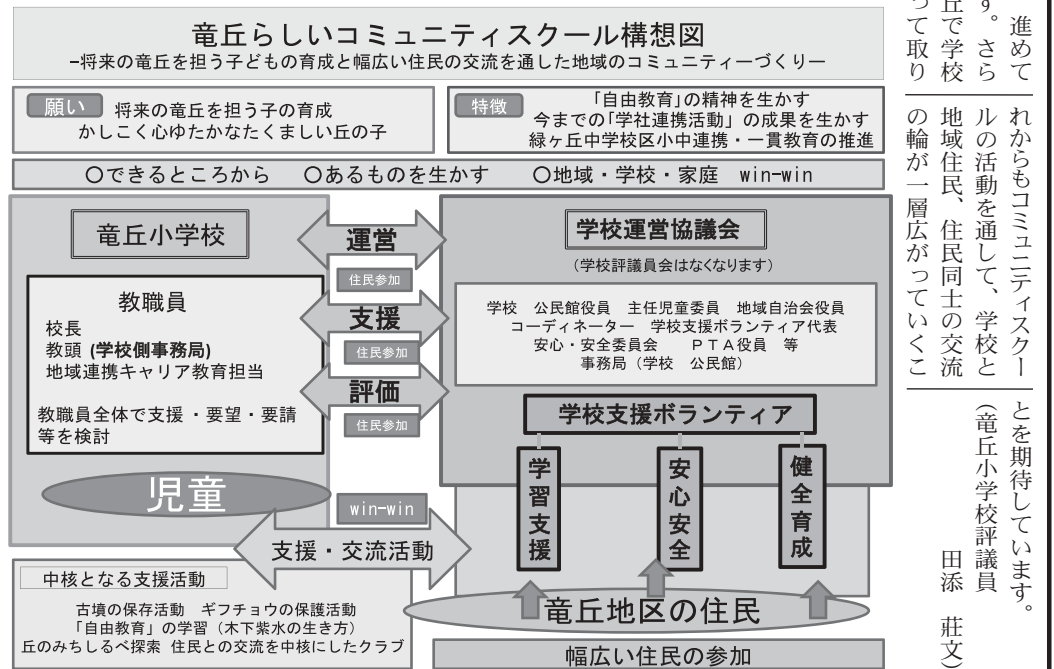
そして、観客が参加して劇を作る工夫がありました。雷の音を木箱と石で出す人と、風の音を団扇にひも付きの玉で出す人、子どもと大人を含めて、七名の特別参加となり、会場を盛り上げていきました。



地域とともにある学校づくり 来年度からスタート 「竜丘らしいコミュニティスクール」とは!?

来年度から飯田市内のすべての学校で「コミュニティスクール」が始まります。コミュニティスクールは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。竜丘小学校では、以前からこうした地域と連携した取り組みを積極的に進めてきています。地域の皆さんが参加する古墳学習や丘の道しるべ探索、クラブ活動などはその具体的な例です。

来年度からのコミュニティスクールの推進については、現在、学校と公民館が中心となり「竜丘らしいコミュニティスクール検討会議」を発足させ、話し合いを進めてきています。基本的には、今まで進めてきた学社連携事業の成果を踏まえ、「できることから」「あるもの(今までの取り組み)を生かす」「学校と地域、家庭の互恵関係をつくる」ことを



れからもコミュニティスクールの活動を通して、学校と地域住民、住民同士の交流の輪が一層広がっていくことを期待しています。
(竜丘小学校評議員 田添 荘文)



トランペット初体験

七月十八日に、ふるさとコンサートin竜丘が、トランペット五重奏団「トロンペテリア」を迎え行われました。

まずは歓迎セレモニーとして、竜丘コーラスの皆さんによる演奏でコンサートが始まりました。

「トロンペテリア」は、首都圏を中心に個々で活躍している若手トランペット奏者が、ふるさとコンサートのために編成した五重奏団で、高い演奏技術と豊富な演奏経験を持ったメンバーによる減少に聴

トランペット演奏体験も ふるさとコンサートin竜丘

歴史は古く、ピアノやヴァイオリンよりもずっと昔から存在しているそうです。

いろいろなトランペットの紹介もあり「百三十CMの長さがあればトランペットになる」と、ガスホースを使った演奏もありました。

さらに、トランペット体験企画として、演奏したことがない方をステージに招き、音出し体験を経て、中学生と小学生の二名が五重奏団と一緒に演奏しました。

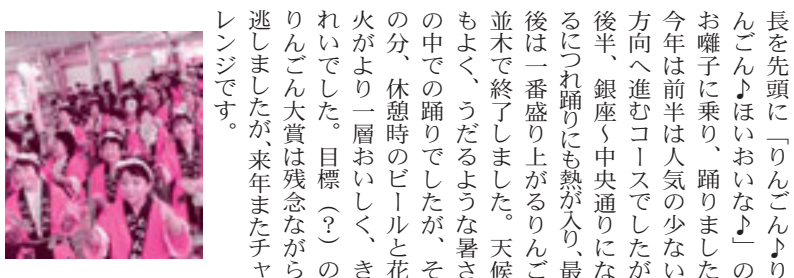
最後には、緑ヶ丘中学校吹奏楽部との合同演奏があり、コンサートは大いに盛り上がりしました。

真夏のひととき、輝く陽光と爽やかに吹き抜ける風のような音楽を心ゆくまで楽しめるコンサートでした。

力作ぞろいのあいさつ標語

今年もあいさつ運動に併せて、小学生によるあいさつ標語が集まりました。応募総数は三百八十二作品で、最優秀作品ののぼり旗が掲げられ、各地区で行われたあいさつ運動であいさつの輪が広がりました。

最優秀賞 「あいさつで 気分も笑顔も キラキラ」 六年一組 本田 萌	優秀賞 「たつおかに えがおがふえる あいさつで。」 一年一組 坂井 忠時	優秀賞 「あいさつは、心のお日さま、あかるいね」 三年一組 北澤 優月	館長賞 「だれとでも あいさつかわす いい地域。」 六年一組 齊藤 拓也	育成委員長賞 「朝おきて 始まるあいさつ 家庭から」 六年一組 北澤 翼楓	PTA会長賞 「あいさつで あの子の心も ストライク」 六年二組 牧島 未来
---	--	--	---	--	---



読書の秋によせて

「灯火親しむ頃、読書の秋」と昔は言ったものです。最近はスマホやテレビなどあらゆるところから情報が流れてきて、みな知識が豊かになり物知りになりました。でも「思考力」は本を読むことで育つと言われているので、物語に感動したり、知らない場所へも行くこともできます。夢を描いたり、思いやりや、や

さしい心が育つとも言います。また、自分の一生を決める本に出会うこともあります。そんな本に出会えるように図書館にはいろいろな本があります。リクエストにはできるかぎり応えるようにしています。図書館は人と人との出会いの場所でもありますので、散歩の途中にでもひと休みしてみてください。そして本を手にとってみた時、思わぬ出会いがあるかもしれません。

○図書館開館日時
水曜日 午後一時～五時
土曜日 午前十時～午後五時
日曜日 午後一時～五時

図書館貸出ベスト3

○絵本
①きゅっきゅっきゅつ 林 明子
②がたんごんがたんごん 安西水丸
③くだもの 平山和子

○児童書
①森のネズミ 岡野薫子
②西遊記①～⑪ 斉藤 洋
③死神うどんカフェ1号店シリーズ 石川宏千花

○一般
①羊と鋼の森 宮下奈都
②家族という病 下重暁子
③王とサーカス 米澤千恵信

今年もりんごん 竜丘連も楽しく参加

飯田の真夏の風物詩「飯田りんごん」が今年も盛大に行われ、我が竜丘連も総勢百十名で参加しました。ブラカードを持った自治会長を先頭に「りんごんりんごん♪ほいほい♪」のお囃子に乗り、踊りました。今年は前半は人気の少ない方向へ進むコースでしたが、後半、銀座中央通りになるにつれ踊りにも熱が入り、最後は一番盛り上がるりんご並木で終了しました。天候もよく、うだるような暑さの中での踊りでしたが、その分、休憩時のビールと花火がより一層おいしく、きれいでした。目標(?)のりんごん大賞は残念ながら逃しましたが、来年またチャレンジです。

流しそうめんも大好評
(育成委員会 安田圭介)

高校生が振る舞う流しそうめんが大好評！ 第十五回水辺の楽校交流イベント



流しそうめんも大好評

九月十一日に「第十五回水辺の楽校交流イベント」が開催されました。今年は、飯田OIDE長姫高校商業科&流流峡復活プロジェクトによる「流しそうめん」の提供が初めて行われました。これは「地域人教育」の一環で流流峡復活プロジェクトに参画した生徒が、伐採した竹の使い道として考案したもので、地元のプロジェクトメンバーの協力により行われました。昆虫や水生生物の採集、顕微鏡での観察の後、いよいよ流しそうめん開始。生徒がそうめんを流すと「おいしい」「もっとたくさん流して」と子どもたちは大喜びです。また、そうめんのほか、なんとラーメンも流され、これを